

# Closure report 2024

## 終了報告書

ミャンマー連邦共和国  
タバウン地域開発プログラム

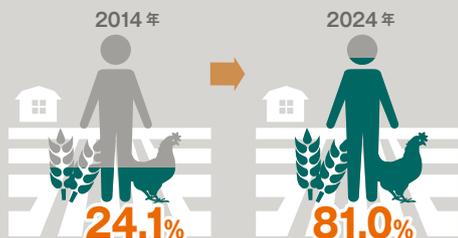
MYA-176922 (2003年～2024年)



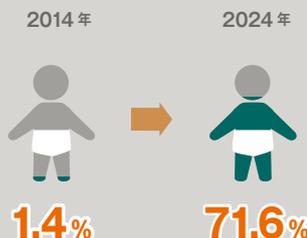
## ありがとうございました

皆さまのご支援により、人々が変わり、地域が変わりました

複数の収入源が  
ある世帯



新生児・乳幼児健診を受けた  
2歳未満児



建設した小学校と  
就学前教育センターの数



## Education



### 教育

学校の整備と意識改革で就学率を改善

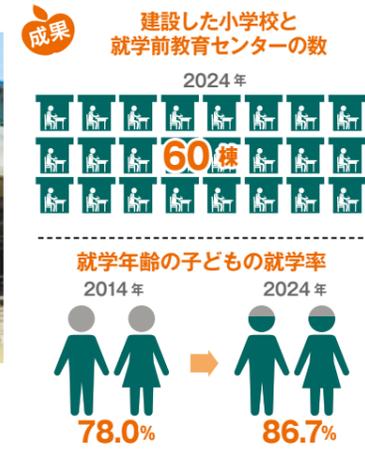
地域の学校は老朽化が進み、子どもたちが安心して学習できる環境ではありませんでした。また、教育に対する関心の低さから、農業の収穫期に学校を休ませたり、経済事情により学校を退学させたりする家庭も多くありました。ワールド・ビジョンは就学前教育センターや小学校の校舎を建設し、学習環境を整備したほか、学校の長期休みを利用して、家庭の事情で休みがちだった子どもの学習の遅れをサポートしました。また保護者への啓発活動を通じて教育の大切さを継続的に訴えかけた結果、今では保護者の意識が変わり、学校を休んだり退学したりする子どもは減少しています。さらに、保護者や地域の代表者がメンバーを務める教育委員会を結成し、より良い教育のために協力する体制が整いました。



支援前  
老朽化した木造の就学前教育センター。床には穴があき、サイクロンが発生すると屋根が飛ばされることもありました



支援後  
新しく建設された小学校の校舎と完成を喜ぶ子どもたち



## Livelihood



### 生計向上

収入の向上が、子どもの健やかな成長へとつながる

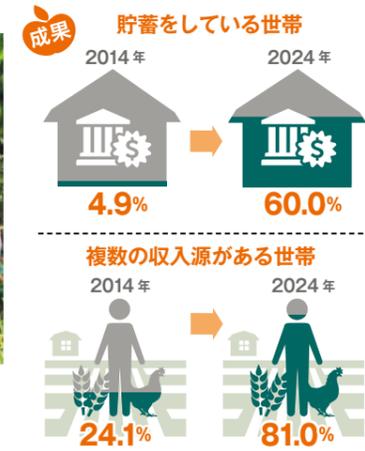
地域では、住民のほとんどが農畜産業または日雇い労働で生計を立てていました。しかし収入は常に不安定で、病気や冠婚葬祭などでお金が必要なお金は高利貸しから借金をしていたため、利子の返済ができずに苦しむケースが多く見られました。ワールド・ビジョンは各世帯の収入の向上を目指し、農作物の種子や家畜の提供を含む農畜産業の技術向上の研修、灌がいの整備、住民が毎月少額のお金を持ち寄って貯金し、そこから借り入れができる貯蓄グループの設立など、様々な支援を行いました。多くの世帯で収穫量が増加して安定した収入を得られるようになった結果、子どもを継続的に学校に通わせたり、家族の栄養や健康に気を配れるようになったりと、子どもたちの健やかな成長につながっています。



支援後  
子どもたちが参加する貯蓄グループ



支援後  
農業研修を受けてトウモロコシを栽培する家族



## Health & Water



### 保健・水衛生

安全な水と保健サービスの提供

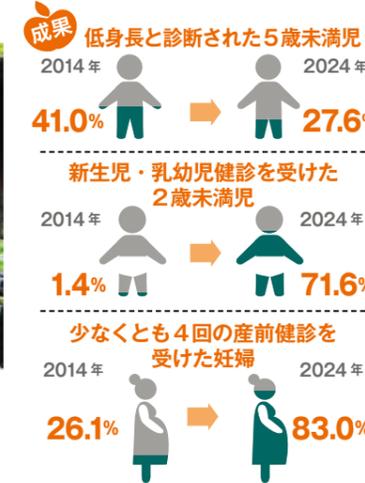
この地域では住民の多くが飲用に適した安全な水を得られず、下痢などに苦しんでいました。また保護者は健康や栄養に関する知識を持っていなかったため、栄養不良に陥る子どもが少なくありませんでした。そこでワールド・ビジョンは給水施設や井戸の建設・修繕を行い、ほぼ全ての住民が家から30分以内で飲用に適した水を得られるようになりました。また簡易医療センターの整備、トイレと手洗い場の建設、保健ボランティアスタッフの育成などを進め、子どもの栄養状態の確認や正しい手洗いの仕方などの指導を行ったほか、啓発活動を通じて健康診断や予防接種の重要性を周知しました。こうした取り組みの結果、子どもたちの健康状態に改善が見られています。



支援後  
学校に新しく建設されたトイレと手洗い場を使う子どもたち



支援後  
子どもたちに正しい歯磨きの仕方を指導する保健スタッフ



## Child Protection



### 子どもの保護

子どもの権利が守られる地域社会へと変化

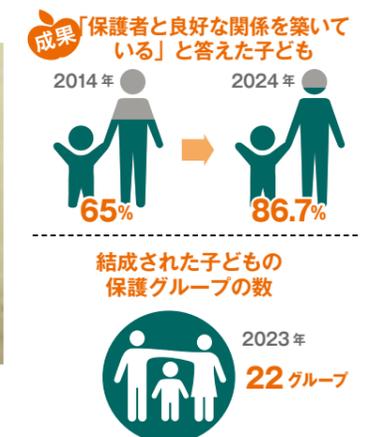
以前は子どもの権利や保護に関する知識が低く、家庭では暴力によるしつけが日常的に行われていました。また地域における意思決定の場面でも、子どもの意見が取り入れられることはありませんでした。そこでワールド・ビジョンは保護者や地域のおとなを対象に、子どもへの接し方や暴力・体罰が子どもに与える悪影響などについて訴える啓発活動を継続的に行いました。さらに子どもクラブの設立・活動を通じて子どもたち自身が地域の課題を知り、解決にむけた考えを発信することができるようサポートしました。こうした取り組みの結果、現在では子どもの権利についての理解が広まったほか、子どもたちも地域社会に参画する経験を通して自信をつけて積極的に地域の意思決定の場に参加しています。



支援後  
子どもクラブで地域の課題について話し合う様子



支援後  
地域における子どもの保護システムを説明する少年



## マネージャーよりごあいさつ



タバウン地域開発  
マネージャー  
モー・ネー・ワイ

これまでタバウン地域の人々と子どもたちに温かいご支援をありがとうございました。以前、この地域では保健サービスが行き届いていなかったため子どもたちは栄養不良に陥り、妊産婦は適切な医療サービスを受けられず、多くの人々がマラリアや結核などの病気にかかっていた。また、毎年のように発生する洪水にも苦しめられていました。しかし皆さまのご支援によって、今では地域が改善されただけでなく、人々の行動や考え方も大きな変化が見られています。子どもたちが明るい未来を描けるよう支えてくださったことに、心から感謝いたします。

## 洪水に流されない柱



支援前



支援後

タバウン地域では、毎年雨期になると洪水が発生します。多くの世帯が高床式住居に住んでいますが、木や竹で作った脆弱な家は簡単に流されてしまうため、人々は毎年のように避難を強いられていました。地域の人々の強い願いを受け、ワールド・ビジョンは2018年6月～2019年7月にかけて、チャイルド・スポンサーの皆さまからの特別なご寄付による、家の高床を支える柱のコンクリート化の支援を実施しました。緊急に改修の必要な73戸を対象に1戸あたり9本の柱をワールド・ビジョンが提供し、住居部分は住民が自己負担するという形で家の改修を進めた結果、人々は水害に強い家で安心して暮らせるようになりました。

# 皆さまとともに歩んだ21年間の支援と成果

準備期  
2003年度  
▼  
2004年度

- ◎ 支援対象地域の状況やニーズの調査
- ◎ 地域住民による保健グループの結成
- ◎ マラリア・下痢・結核などの病気を予防するための保健指導
- ◎ 人身取引防止に関する研修と、人身取引被害者の社会復帰支援



チャイルド・スポンサーシップについて地域住民に説明する様子

第1期  
2005年度  
▼  
2009年度

- ◎ 歯ブラシ、歯磨き粉、せっけんなどの衛生キットの提供
- ◎ 栄養不良の子ども50人を対象とした栄養プログラムの実施
- ◎ 学校での健康診断の実施
- ◎ 8つの学校を建設・改修
- ◎ 就学前教育センターの建設・改修
- ◎ 洪水が頻発する地区での防災研修
- ◎ 農家を対象とした農機具や種子の提供



新しく建設された小学校の開校式

第2期  
2010年度  
▼  
2014年度

- ◎ 184人の子どもを含む1,243人の患者に、医療施設への搬送や紹介などの支援を実施
- ◎ 栄養不良の子どもを持つ母親を対象とした、栄養価の高い食事作りを学ぶ研修
- ◎ 地域の助産師・保健スタッフ・ボランティアスタッフを対象とした、産前・産後ケアに関する研修
- ◎ 253人の妊婦に、タオル・せっけん・清潔な布などが入った出産キットを提供
- ◎ マラリアおよび結核患者への医療支援
- ◎ 19カ所の給水設備を設置
- ◎ 小学校とノンフォーマル教育センターに毎月児童図書を提供
- ◎ 203世帯に合計203頭の子豚を提供



子どもたちのための栄養価の高い食事作りを学ぶ母親たち

第3期  
2015年度  
▼  
2024年度

- ◎ 小学生がいる家庭に、ソーラーライトと文房具セットを提供
- ◎ 貯蓄グループの設置・運営
- ◎ 養鶏を営む世帯に鶏ワクチン接種の支援
- ◎ 5歳未満の子どもがいる家庭に、殺虫剤入りの蚊帳を提供
- ◎ 洪水に耐えうるコンクリートの柱を使った住居作りの技術支援と建設資材の提供
- ◎ 支援終了後の各活動の移行計画に関する、関係者との話し合い



鶏ワクチン接種の支援を受けた家族

## 支援を受けたチャイルドのストーリー

「一番の願いは、妹と弟が学校に通い続け、安定した幸せな人生を送ることです」

ナインさん  
(20歳)

20歳のナインさんは、母親、妹、弟とともに暮らしています。父親を幼い頃に亡くしましたが、家族4人で貧しいながらも幸せな日々を過ごしていました。ところが彼が中学校10年生のときに新型コロナウイルス感染症が流行し、母親の収入は激減。一家は日々の食事も満足に取れなくなってしまいました。

「幸いなことに、私たち家族はワールド・ビジョンから米や食用油などの食料に加えて、日用品や養豚・養鶏に必要な資材などを支援してもらいました」。その後ナインさんは母親と一緒に貯蓄グループにも参加し、農業のための土地を購入するなど、生活を立て直すことができました。

「ワールド・ビジョンの支援によって、私たち家族だけでなく、地域の人々の生活が大きく変わりました」と語るナインさん。トイレができて衛生環境が良くなったり、農業や畜産の研修を受けて収入が増えたりと、知識や技術を得て地域全体が力をつけていることを実感しているといいます。

「今の一番の願いは、妹と弟が学校に通い続け、安定した幸せな人生を送ることです。そのために必要なことに、全力を尽くしています。日本のチャイルド・スポンサーの皆さまのこれまでの温かいご支援に、心から感謝しています。皆さまの健康と幸せをお祈りしています」

